

2021年12月3日(金)、熊谷宿を観光ボランティア「くまがい探偵団」の案内で、熊谷の歴史をたどりながら歩いてきました。冬とはいえ風もなく、比較的暖かい一日をのんびりと楽しむことができました。

散策ルート(約8km)は以下マップの赤線(午前)・赤点線(午後)の通り。今回の参加者は10名でした。

熊谷宿 ガイドマップ

中山道有数の宿場町として発展した熊谷宿。この熊谷の歴史を訪ねてみましょう

熊谷観光ボランティアガイドの会
くまがい探偵団



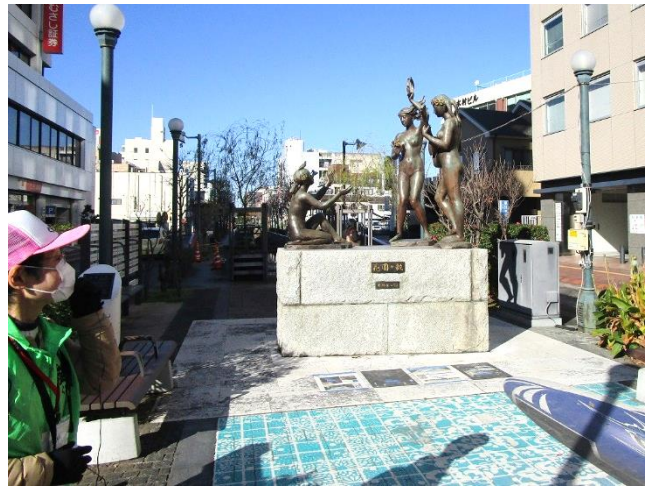
(上図はくまがい探偵団作成の熊谷宿ガイドブックより抜粋コピー)



9:45 熊谷駅北口 鳥瞰図の前にて、ボランティアガイド古澤さん、新井さん、榎本さんの説明を受ける。



9:50 駅前広場の熊谷次郎直実像



9:56 星川広場「花園の歌」の像

星川が整備され、六つの広場には彫刻が置かれ、橋にはお祭りに関する名前が付けられている。



星川には多くの鯉などが放されている。

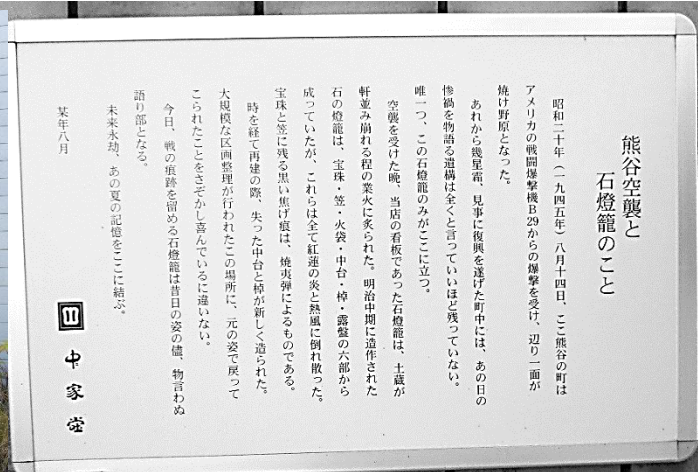


10:05
身代わり地蔵

熊谷空襲で焼失した久山寺の跡地に、戦争犠牲者の慰霊のために建立された。



熊谷空襲の戦火を逃れた戦前からの家屋



10:12 中家堂の石灯籠

熊谷空襲時に灯籠の宝珠と笠のみ焼け残り、他は崩壊のため、近年再構築された。

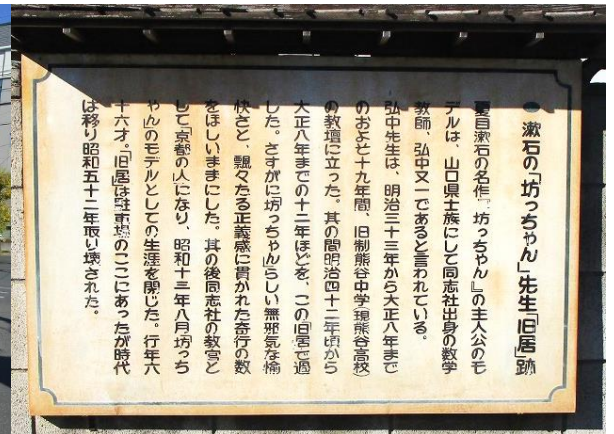


10:17

高城神社、平安時代初期の創建と云われ、熊谷の総鎮守。



天保12年(1841)に関東一円の藍染め業者150名の奉納による常夜灯



10:32 「坊ちゃん」先生のモデル 広中又一が旧制熊谷中学に赴任した時の旧居跡

10:37 千形神社 平安末期、熊谷次郎直実によって創建されたと伝えられる。直定(直実の父)が熊を退治した時の血形神社から千形神社へと転じたと云われる。



10:50 聖パウロ教会 1919年に建設された。



日本聖公会



10:57 熊谷稲荷神社
熊谷次郎直実の守護神として
元久2年(1205)創建された。



11:00 熊谷寺 熊谷次郎直実が出家して草庵を
設けた地に開基された浄土宗の寺。
「熊谷」の音読み(ゆうこく)が寺の名となった。



寺の門前で、ボランティアガイドさんから説明を聞く。

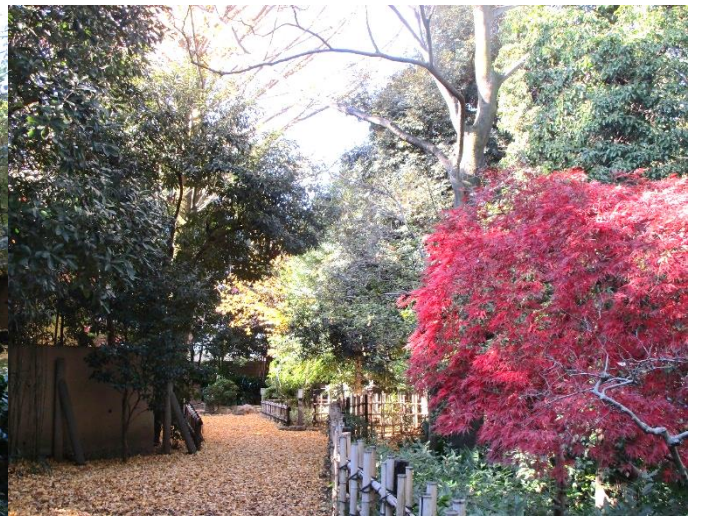
11:10 八木橋にて小休止



11:25 旧中山道跡の石碑(八木橋東口の17号側)
八木橋百貨店の1階には、かつての中山道の
位置に通路が設置されている。

11:40 星溪園
熊谷宿の本陣だった竹井家の
別邸として造られ、玉ノ池を
中心とした回遊式庭園。





庭園内は紅葉・黄葉、通路は銀杏の落ち葉で秋を満喫できました。



12:10 星溪園にて集合写真、ボランティアガイドの新井さん、榎本さん

イオンのフードコートで各自昼食
周辺の蕎麦屋「砂場」にて全員が食事を済ませ、

13時過ぎにフードコートに集合後、午後の
散策に出発。





13:22 石上寺
熊谷の町を荒川の洪水から守るため堤防(北条堤)が構築された。しかし度々決壊するので、堤防の上に寺を建て、仏の加護で守ってもらった。



13:40 愛宕・八坂神社
「うちわ祭り」は八坂神社の疫病退散祈願の祭礼で山車・屋台・神輿を繰り出して行われる。



13:50 星川通りに戻る。
星川の下部に「六堰」から引いた水路がある。



13:55 戦災者慰霊女神像
昭和20年8月14日の空襲の犠牲者を悼み、戦後30周年に、女神像が建立された。長崎平和記念像で有名な北村西望氏の作。





14:00 若者広場「新風」

14:05 太陽の広場「レダ」

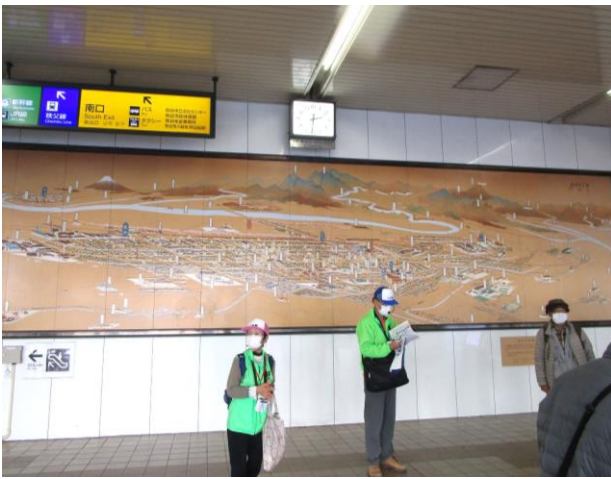
星川に7つの広場があり、それぞれに彫刻像、ブロンズ像が置かれ「星川彫刻プロムナード」と呼ばれている。



14:10 作家・森村誠一の生家 近くに親戚が経営されている森村ビルには「誠実の証明・シルエット」というスナックがありました。



14:20 「お祭り広場」にて説明を聞く。



14:30 熊谷駅北口、鳥瞰図の前に戻り
無事解散



一部有志はその後、忘年会に参加、
その後、無事帰宅しました。

二日前までの寒い冬日とは変わって、朝は冷え込みましたが、風もなく陽射しも暖かい一日、仲間の皆さんと久しぶりに、熊谷を歩くことができました。

普段、近場に住んでいながら、知らなかった場所、由緒ある建物などを、「こんなところがあったのか・・・」と、改めて知った方も多かったと思います。

久々に約8kmの街歩きでしたが、大きなトラブルもなく無事に完歩できたよかったです。

参加の皆様、大変お疲れさまでした。

次回は、来年1月14日(金)「川越七福神めぐり」が美術工芸科の担当で開催されます。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

記:加藤 治朗